

蘇州に縫製工場新設

八木通商とマッコニーニホルD 高級品「沿岸部が最適」

【上海＝稲田拓志】八木通商とマッコニーニホルディングス(東京、會藝文社長)は、中国・蘇州に縫製工場、蘇州八木馬可尼時装を設立した。日欧米の高級品市場に向け、布帛のフルアイテムを生産する。5月後半から稼働しており、縫製ワーカーは6ラインで1500人。年末から来年の旧正月明けをめどに12ラインに増強。将来的には18ライン体制とする計画だ。

蘇州八木馬可尼時装の資本金は300万円。出資比率は八木通商が55%、マッコニーニホルディングスが45%。総投資額は600万円。現段階の生産能力は、ジャケット換算で月1万6000着。城谷証八木通商執行役員中国総代表が董事長、會藝文マッコニーニホルディングス社長が總經理に就任した。

マッコニーニホルディングスは、シャケット換算で月1万6000着。城谷証八木通商執行役員中国総代表が董事長、會藝文マッコニーニホルディングス社長が總經理に就任した。

「情報が集まりやすく、高級品の生産に適し、物流面でもメリットが大きい」(八木通商)ため、「縫製産業が盛んで、技術レベルの高い労働者を確保し、

量産拡大が必要だったほ

ら、新工場を立ち上げることにした。八木通商の中国法人、八木通商上海が行う欧米向けの製品ビジネスにも活用する。

マッコニーニホルディングスは、労務管理、工場運営を担うほか、既存の縫製拠点、蘇州マッコニーニホルディングスからオーダーが急増しているため、新工場でも欧米向けの生産を手がける。

中国では人件費の上昇や労働者不足などが表面化、縫製拠点を沿岸部に移転させる動きが目立ち、上海近郊で縫製工場を

6ラインで稼働開始。年末から旧正月明けには12ライン、最終的には18ラインに増強する計画



6ラインで稼働開始。年末から旧正月明けには12ライン、最終的には18ラインに増強する計画

蘇州は優れた立地

城谷証八木通商執行役員中国総代表の話。百貨店アパレル向けのビジネスを構築したい。内陸部や中国以外へ移転する動きがあるが、情報の鮮度や物流を考えた場合、上海近郊で作るのが成功の鍵だ。

蘇州はテキスタイル産地の浙江省と情報が集まる上海の間で位置し、工場の立地として優れている。蘇州マッコニーニホルディングスの管理部門やソフトを活用することで、コスト的にも内陸部に對抗できる。

新設する動きは多い。ただ、素材背景や技術レベルの高さなど中国・沿岸部のメリットが指摘されるほか、縫製工場の閉鎖も相次いでいるため、優良工場にとどめては労働者の確保がそう難しくないと側面もある。

絶好のチャンス

會藝文マッコニーニホルディングス社長の話。工賃の安さだけを見ると、チャイナプラスを魅力に感じるかもしれないが、サプライチェーン全体もソフト面を考えると、中国のノウハウは簡単に他国へ移せない。ロットの小さい日本のオーダーはチャイナプラスに適さないのではないかと、逆に欧州のペタリーンは、中国生産を増やしている。東欧から中国に移そうという動きだ。その意味で絶好のチャンスだ。

現に蘇州八木馬可尼時装は「思ったよりも労働者は集まる。6ライン分は予定通り確保できた」としており、「レイダースの高級ラインを生産する上で、中国の沿岸部こそが最適だ」と見ている。